

# 7つの歴史文化ゾーン

[見開きページ解説]

## 1 旧江戸城と外堀

江戸城の痕跡は、皇居東御苑に残る江戸城跡(国特別史跡)の石垣や櫓のほか、牛込門から赤坂門までの江戸城外堀跡・常盤橋門(国史跡)が残ります。

## 2 田安門から旧上州道沿いの寺院

江戸五口のひとつ江戸城北の丸の田安門(国重要文化財)から牛込門跡を経て神楽坂周辺には江戸時代来の寺院が残ります。

## 3 江戸城外堀と徳川御三家屋敷

牛蔵門から四谷門跡を経て、四谷大木戸跡、内藤家屋敷跡(現・新宿御苑)へ向かう江戸五街道のひとつ甲州街道をたどります。この界隈は、徳川御三家の紀州藩邸跡と尾張藩邸跡、彦根藩井伊家上屋敷があり、明治維新後に皇室邸宅(北白川宮邸・李王邸、伏見宮邸、閑院宮邸)となります。

## 4 外桜田門から東海道界隈の大名屋敷

外桜田門から虎の門の外堀石垣を経て、大名庭園(旧浜離宮恩賜庭園・旧芝離宮庭園)や徳川将軍家菩提寺の増上寺をたどります。

## 5 江戸の水辺

神田・日本橋界隈の橋高と天下祭、旧外堀(日本橋川の大手町川端緑道)に残る石垣や常盤橋門跡、さらに日本橋(国重要文化財)へ続く水辺をたどります。

## 6 奥州道・日光御成街道界隈の江戸の神社

筋違門跡(現・万世橋エキースト)から神田明神・湯島聖堂を経て、寛永寺のある上野をたどります。徳川家綱・綱吉の靈廟建築のほか、谷中の大名屋敷や近代歴史建築物といった歴史が集積しています。

## 7 徳川家の女性にまつわる寺院

伝通院と護国寺には、徳川将軍家に関わる女性の墓所が残ります。また、旧中山道沿いの金沢藩前田家上屋敷跡(東大赤門・三四郎池)、柳沢家下屋敷庭園の六義園をたどります。

—江戸から東京を結ぶ—豊で多彩な歴史文化観光資源—

# 江戸東京歴史文化回廊

**史跡の国宝である特別史跡江戸城跡は、日本一壮大で美しく、城門や石垣、豊かな水を湛えた外濠や内濠は、昔の姿を今に残し、失われた天守や本丸御殿の痕跡は往時の姿を想い起こさせ、皇居と城郭が併存し、四季折々の自然と一体となる雄大な景観に包まれた美しい城郭を形成し、世界遺産に十分に匹敵すると云われています。**

江戸幕府の政庁であった江戸城本丸御殿は、**遡ること150年程前、火災で焼失したために、往時を偲ばせるものは殆んど無く、一方、御府内(千代田区等8区)に至っては、多くの歴史文化遺産の分布が広範囲にみられます。**

田安門・半蔵門・外桜田門・常盤橋門・神田橋門、即ち、江戸五口から放射線状に延びる旧街道を中心に見られる**七つの歴史文化ゾーン**には、大名屋敷や大名庭園、神社、仏閣、内濠、三十六の見附が残り、最強の要塞であった江戸城外濠、市民の守り神・稲荷神社等が現存し、歴史建造物群」としての姿は、日本史上、群を抜き出た最大規模の「総構え・城郭都市」であったことが偲べれます。

**江戸城本丸御殿は儀式や行事に高い格調を重んじた大広間に代表され、芸術性に富む壁面や天井、障子、床や座敷飾り、彫刻欄間、飾金物などに大胆さや優美さが室内意匠の至るところに表現され、極めて秀でた匠の技により見事に表現されていたことが窺われます。**

**江戸では華道や香道、茶道、武道、俳句や連歌などの興隆はもとより、能、歌舞伎、天下祭りやお神楽等、様々な伝統文化や芸能が、武士のみならず、町人や農民の民衆芸能に至るまで、豊かな文化として育まれていたことが窺われます。**

**一方、江戸時代は最も開発が進み、城下町に集められた武家や民衆に関わる遺産、ジェンダ一等の社会の問題や矛盾、又は、開発によって生じた災害に関わる遺産も残されており、現在、ワークツリーズムとして注目もされつつあるといえるでしょう。**

**都市東京の現在は、それらの歴史文化資源が「伝統と革新」により、豊かな観光資源として「観る・食べる・遊ぶ」として散在していることが窺われます。** それらを再発見・再生し、群として繋ぐことにより、今、新たに、江戸東京歴史文化回廊として、厳然とよみがえり、内外から訪れる多くの人々にもたらす感動と共感、喜びを、私達と共に分かち合うことができるのではないのでしょうか。

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス